

# 県内地域史

## 研究会紹介

(八)

### 大分市大在地区文化財同好会

① 会 名 大分市大在地区文化財同好会

② 事務局所在地 大分市政所一丁目四番一八号

大分市大在公民館内

③ 発足年月日 昭和五七年一月一日

④ 会 長 名 山岡俊邦(三代目)

⑤ 会 員 数 二八名

⑥ 会誌名・年発行回数

『大佐井』・年一回

⑦ 最近号の主な目次

〔第一五号〕一五周年記念特集号

〔人権講義〕「近代部落史について」津崎英二、〔仏像講義〕

「仏像の見分け(いろいろの仏さま)」山岡俊邦、〔講義〕

「鶴崎を中心とした近世史―鶴崎港と三佐港―」佐藤満洋、

〔講義〕「モンゴルの歴史を尋ねて」首藤雅彦、「『モンゴ

ルの旅』を聴講して」萱島宮子、「地区内研修」「ふるさと

再発見―大在地区内の史跡を尋ねて―」藤野十一、「地区外

研修―国東半島北部の仏像を尋ねて」「観音霊場夷山霊仙寺」

藤野和恵、「威王山無動寺」薬師寺敏子、「大岩屋山心磨寺」

薬師寺直、「長岩屋山天念寺」藤下アキエ、「阿弥陀如来の

お里帰り」事務局、「蓮華山富貴寺」姫野憲一、「馬城山伝

乗寺(眞木大堂)」姫野憲一、「平成九年度 海部まつり事業

実施について(第四回)」事務局、「文殊の恩讐の彼方へ」薬

師寺直、「日本の神さまと祭の話―雑学覚之帳より―」三浦

福間、「昭和二六年当時の大在村役場の職員の名顔」姫野由

栄、昭和三八年六月以降の大分市議会議員名簿―大在地区―・

「昭和三八年合併以降の大分市役所大在支所長歴代名簿」・

「昭和三七年合併以降の退職職員の動態」姫野由栄、「大在

地区の近代史を探る―新大分市に合併以後―」(九)垣本正雄、

「幕末維新の激動時代を生きた最後の藩主たちの余生は」垣

本正雄、「宮崎県南郷村『百済の里』訪問―小さな村の大き

な挑戦―」山岡俊邦、「古里巡礼(2番)蓬萊山亀塚古墳」姫

野憲一、「一五周年記念特集」(1)大在地区文化財同好会の概

要、(2)大在地区文化財役員名簿(年度別)、(二)大在地区文化財会員名簿(年度別)、(3)大在地区の歴史年表(平成四年から九年まで)、(4)大在地区文化財同好会一五年のあゆみ、(5)会誌『大佐井』に搭載された研修分野(第一〇号から第一四号まで)、(6)大在地区の伝統文化財的な建築物調(一)神社の部(元郷社一社・元村社九社)、(二)寺院の部四院、(三)自治公民館の部一二館、(四)消防団詰所の部一一部、(7)大在地区の土地区画整理事業前の各地区別大字・小字一覧表、(二)大在地区の土地区画整理事業後の住居表示による町名図。

#### 〔第一〇号〕一〇周年記念特集号

(1)大在地区文化財同好会の概要、(2)大在地区歴史年表(石器時代から平成四年まで)、(3)大在地区文化財同好会の一〇年のあゆみ、(4)会誌『大佐井』に搭載された研修分野(第一号〜九号まで)、(5)文化財と大在地区の周知遺跡、(6)有形民俗文化財の概要と目録、(7)大在地区新・旧地図。

#### ⑧ 活動状況

本会発足の発端は、郷土史に関心、興味をもつ数名が昭和五五年頃、公民館に会合して地区の文化財の探求や解明に就いて話し合い、また付近の史跡を数カ所巡検したことがあり、

これが本会の発足に発展することになった。

そして昭和五七年一月一日に市農協大在支所会議室で発会式をあげることになった。

以来、毎年、大在地区内の文化財や史跡等の調査を行い、外部から講師を招いて歴史の講義をうけたり、会員の研究発表を行うなどして研修を深めた。また地区外の史跡や文化財の見学会も毎年行ってきた。近年の例をあげれば平成五年は院内町の石橋巡り、同六年は大分市内の歴史探訪と、参勤交代街道探訪(熊本に一泊)。同七年は白杵石仏と鶴崎周辺の史跡巡り。同八年は県南佐伯の歴史とリアスの鶴見半島探訪。同九年は国東半島北部の仏像探訪を行った。

このような活動が認められて、平成五年に「大分市ふるさとづくり運動」功労者表彰を受賞した。

会長は当会発足の昭和五七年から同六三年まで七年間、垣本正雄氏が勤め、平成元年から同六年までの六年間を三浦福岡氏、同七年から山岡俊邦氏がそれぞれ勤め現在に至っている。